

令和 6 年度 学校評価シート

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
・病弱の児童生徒の実態や特性をふまえ、一人一人が自分らしく豊かに生きる力を身に付けられるよう専門性を生かした教育を実践します。
・様々な学習経験やまわりの人との関わりを通して、自分で考え、判断し、自分を大切に する児童生徒を育てます。
・教職員がそれぞれの責務を自覚し、互いに実践を高め合い、地域から必要とされる活 力ある学校づくりに努めます。

学校評価の公表方法
学校ＨＰに概要を公表する。 学校運営協議会で概要を説明する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（２月３日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	児童生徒の病気（障害）等への理解を深め、多様化に対応できるよう丁寧な実態把握に基づいた授業づくりを実践する。	B	公開授業の実施や学部研修をとおして、児童生徒の実態への理解を深め、よりよい授業を展開する。	年間２回の公開授業以外にも相互の授業参観の機会を設ける。学部内で児童生徒の病気や障害の実態を理解する機会を設ける	B	公開授業は年間１回とし、常時互いの授業を参観できるようにした。学部研修で授業研や困り感にせまる内容を取り上げた。	高等部では生徒の実態を踏まえた新しい教育課程を設定した。新年度に向け、学習内容等を精査している。系統的な指導ができるよう学部内で授業実践を共有し振り返りながらより充実した内容としていくことが必要である。
			高等部（準ずる教育課程）は生徒の実態に応じた教育課程を設定する。	教育課程を11月までに設定する。	A	学校運営協議会で意見をいただき11月までに教育課程を設定した。	
			ミドル層が中心となり、研究授業及び検討会、校内研修会を実施する。	中堅教諭等資質向上研修による研究授業検討会を年３回実施する	A	中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業・校内研修会を３回以上実施した。	
2	自立と社会参加を目指し、地域や関係機関と連携した取組をさらに充実させる。また、PTA活動の活性化に取り組む。	B	公民館や大学の協力を得て外部講師による体験型授業を両学部とも計画的に実践する。	地域資源を活用した学びを年間10回以上実践し、地域貢献（学びの還元）につなげる。	A	公民館の協力を得て体験型の授業を年間10回以上実施した。生徒会が中心となり松林の清掃活動にも取り組んだ。	学校運営協議会の運営方法を見直し、委員と教員が協議できる場とした。学校が希望する活動に委員からアドバイスや意見をいただき、松林の清掃や公民館サークルのコンサート等充実した取組を実現することができた。PTAについては交流会等で意見交換する場を設け、参加した保護者には好評だった。より多くの保護者が参加できるような工夫が課題である。
			PTAと学校運営協議会委員が連携し、学校運営について考える。	PTA交流会や保護者学級の企画・運営に学校運営協議会が参画する。	A	学校運営協議会委員が中心となり月１回程度保護者が自由に語らう場を校内に設定した。	
			学校行事や授業（自立活動や産業社会と人間等）を通じて、キャリア教育の充実を図る。	キャリア教育の視点を持ち、計画・振り返りを大切に行事（授業）に取り組む。	A	学校運営協議会でアイデアをいただき、「美浜町に住む魅力的な大人から生き方を学ぶ」講座を年間５回実施した。	
3	地域でのセンター的役割を果たすため、情報の発信に努めるとともに、病弱支援教育の専門性の向上を図る。	B	チームで指導にあたる意識をより高め、課題予防的・発達支持的視点に立つ校内外のケース会議を継続的に実施する。（和歌山大学共同研究の活用）	必要に応じて迅速にケース会議を開催し、対応にあたる。ケース会議の運営に関わる教員を増やす。	A	和歌山大学との共同研究を活用し校内ケース会議を運営しながら効果的な方法等について検討した。	学部主事・コーディネーターを中心に気になる児童生徒のケース会議を適宜実施した。校内ケース会議が経験の浅い教員にとっては心身症等の児童生徒の実態把握や見立てを学ぶ研修の側面もあり、今後もより効果的な運営方法について検討を重ねていく。
			日高地方の教育委員会や各学校との連携を見直し、各校が自走できる支援体制の在り方について研究する。	教育委員会指導主事や学校管理職と連携する機会を設け、センター的機能における課題を共有し、解決に向けた手立てを整理する。	B	校内で検討したケース会議のひな形をもとに、巡回相談等の機会に実践した。教育委員会等との連携には課題が残った。	
4	業務全般の見直しを図り、組織的かつ効率的な学校運営に取り組む。	B	校務分掌及び学部において、業務の見直しを図り、出された改善アイデアを実現する。	慣行を見直し、不要と判断した業務を廃止する等職場の環境整備を進める。	A	校内で業務改善に係る具体的なアイデアを募り10項目以上を実現した。	業務を減らすことは実現が難しかったが、本取組を契機に効率化を図ろうとする意識が高まりつつあり、今後も継続して取組を進める。

学校関係者評価（２月３日実施）
○二学部児童生徒学校評価アンケート結果 「そう思う」が高い（7割を超えている）項目
・他の学校にない特色があると思いますか。
・先生は相談にのってくれると思いますか。
・いじめのない学校、学級、集団づくりに取り組んでいると思いますか。
・避難訓練等を通して、防災教育への取組が行われていると思いますか。
○二学部保護者学校評価アンケート結果 「そう思う」が高い（7割を超えている）項目
・児童生徒の特性に応じた支援や指導が行われていると思いますか。
・学校行事等で充実した体験学習などが行われていると思いますか。
○学校運営協議会委員評価（自由記述）
・子どもたちの課題を共有し、めざす子ども像や重点目標に準じた取組が豊富に展開されている。学習の面でも、社会生活支援の面でも、生徒一人一人の特性に合わせた支援をしていると思います。
・子どもに合わせた教育課程を常に模索し続けており、実践と省察を重視した教育が実施されていると思います。
・学校が社会からやや閉ざされている印象も感じる。子どもたちの将来のことを考えると、より地域社会に開いていくことが必要だと感じる。今は、学校へ理解をしてくれている周辺の機関などと上手く連携されていると感じるが、その輪をもっと広げていくことを期待する。
・「自分らしく生きる 豊かに生きる」という明確なビジョンを打ち出し、子ども一人一人がより良く成長できるように、具体的な取組を推進しているなということが伝わってきます。学部再編や高等部教育課程の見直しも、その一つだと思いますが、必要な改革に果敢に挑戦されている姿勢には感銘を受けます。